

CS オール丹那

函南町立丹那小学校

CS 通信

令和 5 年 9 月発行

大人に育てられる学びから 子供が「自ら育つ」学びへの転換を目指して

9 月 6 日 第 3 回 CS オール丹那会議が開催され、以下の三つの行事への CS としての活動協力について確認しました。いずれの行事も広く参加者を現在募集中です。

1 オール丹那運動会 9 月 30 日(土) 8:30～

玉入れ・丹那音頭・猫おどり・棒取り・綱引きへの参加協力

2 150 周年記念式典 10 月 13 日(金)13:10～

OB・OG・地域住民への声かけと参加者の取りまとめ 写真の収集協力

3 函南町制 60 周年記念行事「かなみフェスティバル」11 月 25 日(土)川の駅にて 15:00～

猫おどりへの参加協力と地域への呼びかけ

また今回は、7 月に実施した学校評価の結果をもとに丹那小学校の教育活動や子供たちにつけたい力について保護者と担任も交えて意見交換をしました。

「自分みがきタイム」への取組 児童 95% 保護者 56%が満足 この差をどう考えるか

「自分みがきタイム」は少人数指導の丹那小ならではの取組です。担任が子供の実態に合わせて助言し、努力を認めていくことで、子供が自分の得意なことをさらに伸ばすことができたり、課題に向き合い自分なりに試行錯誤したりしていくことを期待しています。

1 自分みがきタイム(自分に合った課題を考えて行う家庭学習)に対する保護者の思い

〈★委員ならびに保護者からの意見 ●教職員から〉

- ★子供の学びをその子の伸びで見える絶対評価でなく、他者と比べる相対評価で考える保護者が多いのではないか。他の子供ができることを自分の子供にも要求しがちである。
- ★親としては、取りこぼしがなく平均的に学んで欲しいと願っている。みんなが同じことを勉強することで保護者は安心できる。
- ★課題が自由になると保護者が深く関わる必要がある。親はなかなか時間がつかれない。
- ★家では一人で考えて学習している。苦手なことはしないで自分の好きなことや得意なこととしかしないようだ。好きなことに関しては、力がついているようだが苦手な勉強もできるようにって欲しい。
- ★中学校では、一律にたくさん課題が出されるので、苦手なことにも取り組めるか心配。
- ★兄姉が中学校へ入学して、宿題の多さに苦労した経験がある。今から指示される勉強にも対応できるようにする必要があるのでは。
- ★がんばってやる子とやらない子の学力差が広がるのではないかと心配である。
- ★小学校は、楽しく通い、楽しく学んで欲しいと願っている。今は、苦手なことをがんばらせるよりも、得意なことを伸ばすことの方が大切だと考える。

- ★従来の一律一斉の学校のカリキュラムだと、子供の可能性は広がらないと思う。
- ★保護者は、子供に失敗させたくないという思いが強すぎる。トライアンドエラーを繰り返し、失敗しながら成功に導いていく力を身につける必要があるのではないかな。
子供に失敗させないように親が先回りしたい気持ちはよく分かるが、将来たくましく生きていくことができなくなるのではないかな。
- 「自分みがきタイム」は、自分で考えて行う家庭学習であって、「やる」「やらない」一緒に決めていけるとよいと考えている。
- 家庭でやってきたことを担任に見せる子供とそうでない子供がいる。見せない子供も漢字の定着はよい。一回書いて覚えられる子供にとっては、毎日漢字を1ページやることは無駄なこと。学びでなく作業の感覚になってしまうのではないかな。帰りの会で「自分みがきタイム」の内容を確認している。何ができて何ができていないのかを自覚する機会にもなっている。自分みがきになって10か月だが授業をしてもテストをしても学力が落ちているようには感じていない。
- ★「自分みがきタイム」の理念は、とても素晴らしい。一律に出す家庭学習よりも担任は大変な思いをされていることが分かった。しかし、それが保護者に十分周知されていない。保護者の不安が解消されるように学校からもっとアピールして欲しい。

2 子供が読書を楽しめるようにするために

- ★本を読むことが学力の基礎となるので読む時間を作ることは大事なことです。
- ★本は、情報を得るための手段である。何らかの情報を得たい調べたいと思えるように仕掛けていくことも必要。
- ★誰が何冊読んだかを可視化し、たくさん読んだ子供を賞揚するならば、何らかの形で地域は協力してもよい。
- ★子供の好きな本をアンケートでとって、学校で購入する試みは素晴らしい。図書室に通う児童も増えるのではないかな。
- ★毎年、「読書」が課題となっているが、東京の江戸川区のように町全体で「読書科」を設置し、学校のカリキュラムの中に位置づけたらどうか。
→(町教委)各学校でカリキュラムの中で読書の時間を設けることは可能だが、町全体で「科」として位置づけていくことは現状ではできない。

3 丹那小で育った子供について

- ★中学校に進学しても丹那小学校の子供たちは、活躍できる子が多い。丹那小では、知識だけでなく勉強の仕方を教わっていると思う。そのため、勉強することを好きにさせてもらっているのではないかな。
- ★校長が大切にしている子供の主体性を伸ばす取組を学校では推進している。丹那地域は、課題が多いので自分たちで気づき、解決できる大人になって欲しい。

決められたことに真面目に取り組むだけでなく、これからは自分で課題を発見し、他者と協働しながら試行錯誤を繰り返し、最適解（現状の中で一番よいもの）を導いていくことが求められています。丹那の子供たちは、周りの大人に支え認められているおかげで、自己肯定感や幸福感が大変高いです。そういう子供たちだからこそ、目標実現のために学び続けられるはずです。皆様、ご支援ご協力を引き続きお願いします。